

KAS

風の谷

びゅう

VIEW

社会福祉法人 風の谷

相模原市田名7236-3

発行責任者 政野 光廣

042-760-1033

<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>

e-mail: [ykoubou@pastel.ocn.ne.jp](mailto:ykoubou@pastel.ocn.ne.jp)



# 自主製作品特集！

編んで 編んで 編んで 編んで

編んで 編んで 編んで 編んで

編んで 編んで 編んで 編んで

編んで 編んで 編んで

編んで 編んで

出来た！！



【2009年 秋号】

◇巻頭文

P 2

◇自閉症支援センター

P 3

◇特集：自主制作品

P 4～P 5

◇自閉症について～嘔吐についての取り組み

P 6

◇研修報告 スペクトラム学会

P 7

◇後援会のページ

P 8

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲910-1 コ-7 野村6-109

毎月15日発行

購読料1部 50円



## 人生の転機から立ち上がりの難しさ



いつも大変お世話になっております。  
つたない文章ですが独り言を聞いて下さい。

まずは世相です。

民主党が世紀の大逆転を演じた衆議院選挙、さて大いに期待しつつもこれからどうなっていくのか？ 福祉がどうなっていくのか？ 自立支援法を廃止し新たに支援の見直しするとマニフェストで公約しているが、一体どんな法案を示そうと考えてくれるのか一向に表舞台に出てきません。私の考えを云わせていただけるのであれば、自立支援法が夫々の立場（支援者・被支援者）の人たちにとって、善し悪しは別としても、今の法律を廃止ではなく（被支援者は応益負担で生活が苦しい・支援者側も施設や作業所の経営が大変だし、職員は安給料で重労働であることも含め）改善する方法を考えて欲しいと思っております。要は、ころころ変えるなど云いたいのです。長妻大臣閣下、我われにとってのプライオリティは「子供の事が第一」であるのは変わらないのです。早く子どもたちが、安心して生活できるより良い法案を打ち出していきたいと思っております。

次に人生ですが、

人それぞれに転機があります。例えば、就職したとき、結婚したとき、子供が生まれたとき、定年を迎えたとき等々何回もあります。私は、今年2月に62歳の定年を迎え、現在特別嘱託の身で同じ会社にお世話になっております。今日現在（10月末）で44年7ヶ月になります。よくも辛抱したものです。その間二人の自閉症の子供を抱え、仕事を両立しながら15年間ほど神奈川県自閉症児・者親の会（厚木・神奈川・協会含め）の役員をやってきました。

テーマに書きました「人生の転機からの立ち上がりの難しさ」です。

会社籍中に転勤や異動があっても飯の糧ですから若干の不安はあっても、次の職場へ順応してきたつもりです。親の会の役員を終わりしばらく休養と思いきや、厚木市親の会前会長より「おやじの会」を立ち上げて欲しいと依頼がありました。どこの親の会もお母さんたちが中心に活動しており、お父さんたちをなんとか引っ張り込んで欲しいと云うのが要望でした。さてさて、やって見るか（厚木の会長をやっていたころから、会に父親が参加すべきとの考え方でした）と気持ちは思っても中々行動が伴わないのです。ある時、テーマのない会合のなかで「なぜ立ち上がれないのでしょうか？」と、今までの経歴を含め皆さんに問いかけてみましたが、いい答えが出ませんでした。ジレットイというかそれが今も続いております。なぜなのでしょう。私にはわかりません。唯一やらせていただいているのが「風の谷」の評議員、そしてたまに出席する「相模原おやじの会」、子供たちが通っていた通園施設時代から付き合い合っていた父親たちと2～3回の飲み会に出て行くくらいです。

我が家には30歳と27歳になる息子がおります。当然思うことは将来の問題です。いつまで面倒を見るのか？ 生活ホーム（ケアホーム）はどうするのか？ 彼等が生活できるお金はどうでしょうか？ 親亡き後（成年後見）はどこの誰にお願いするのか？ 考えれば、もっともっと沢山の心配事があります（自分たちのことを含め）。そのためにも立ち上がる何かのきっかけが欲しいのです。さてさて悩みは尽きません。皆様はどう思われますか。グチではありません（助言があったら教えて下さい）。

今後ともよろしく願いいたします。（評議員 佐藤辰男）



今回の風の谷 VIEW 巻頭文は風の谷の評議員の佐藤氏に寄稿していただきました。佐藤氏は『神奈川県自閉症児・者親の会連合会』会長を全うされ、2人の自閉症者の父として、良き環境づくりに広く尽力されています。今後も協働し、自閉症者の暮らしやすさを求めてともに歩んで行きたいと思っております。



やまびこ工房 施設長 中島博幸

## 「相模原自閉症支援センターだより」

去る7月16日(木)・17日(金)に京王プラザホテル(新宿)にて、「2009年度第41回関東地区知的障害福祉関係職員研究大会東京大会～新たな福祉の黎明を生きる～」が開催されました。1日目に「第4回東京大集会」と銘打ち、福祉関係職員の他に当事者やそのご家族の方、さらには民主党、公明党、日本共産党の所属議員が参加しての意見発表等がありました。ちょうど都議選直後で、さらには夏の衆議院議員選挙をまじかに控えていたこともあり、現在の障害者福祉政策に一石を投じる内容となったようです。

そんな中、風の谷としても、2日目の第2分科会「地域で暮らしを支える～実践から今後のあり方を考える」で実践を報告してきました。入所の立場から群馬県の社会福祉法人はるな郷、生活支援センターの立場から千葉県社会福祉法人愛光、そして日中支援の場である生活介護事業所から風の谷の報告となりました。それぞれが立場の違う中で直面している案件に対して、真摯に取り組んでいる様子がうかがえる素晴らしい報告でした。共通していたのはテーマでもある地域で支えるということですが、問題点も共通したものがあるように感じました。それは、障害者自立支援法の施行で事業が多様化し、サービスを使う側が取捨選択し契約できるようになりました。そのように事業の多様化が進む中、施設も施設職員も一人一人の役割や担う部分が多くなりすぎて、負担が増して混乱を生じている気がした点です。資本の中でさまざまな人たちの思惑が入り乱れ、細分化する必要のなかった事業も細分化して、障害程度区分の中にタイムスタディを感じ、もっとシンプルで24時間トータルに支えていくシステムが必要なのだろうなと思いました。もう一度、「当事者のために」という基本に立ち戻り、しっかりと政治家主導で国や行政としての方向性を見せてほしいと思います。そのように私たちの仕事も構造化して、何をしたらよいか、何を求めているのかを明確にしてほしいと思います。

構造化といえ、この夏はもうひとつ発表の場を提供していただきました。それはなんと、「自閉症カンファレンスNIPPON」での発表です。知らない方には全く興味ないかもしれませんが、私にとっては年に一回、故E.ショプラ氏やG.メジボフ氏の話聞いて、さらには全国の素晴らしい親御さん、実践家の人たちの話を聞いて、「おー」「えー」「すげー」「頑張んなきゃ」と思いながら過ごす癒しのひと時でした。そのような中で戸惑いを感じながらの発表でしたが、終ってみればなんの変りもなく、真剣に自閉症という障害に向き合っている仲間がこんなにもいるんだという“安心”“感動”そして、「まだまだやらねば」という心地良い気持ちに包まれているだけでした。そのような機会を与えてくださいました、朝日新聞厚生文化事業団の福田様、電機神奈川福祉センターの志賀様、本当にありがとうございました。

相模原市のH22年度政令指定都市移行も正式に了承されたようです。そんな中、相模原自閉症支援センターを含めた社会福祉法人風の谷は、相模原市という地域で必要とされる特色ある施設であり続けなければならないと思います。そのためにも、さらに自閉症に特化すべく事業展開して、職員の資質を高めていかなければと思います。(西村 三郎)



# 自主製作品に、新しい仲間が加わりました！！

QWL(労働生活の質的充実)向上の取り組みの一環としてかねてから取り組んでいた刺繍やビーズに加え、この度新しい自主製作品作りが加わりました！地域の皆さんや地域生活との架け橋になれば…と、より皆さんの生活に近いものをテーマに女性職員を中心に考案。利用者の皆さんが毎日こつこつと取り組んでくださっているおかげで、製品が続々と仕上がってまいりました。

…そこで！今回は、新たに加わった製品作りをここで紹介したいと思います！



## 編み物

少し難しいイメージのある「編み物」

やまびこ工房では…なんと編み棒も鉤針も使わずに編んでいます！

使っているのはこの編み機→

※筒型に編んでいきます。(大きなリアンのような感じですわ。)



編み機を傾けたり、指で押さえたり…毛糸をそれぞれのスタイルで抑えて編んでいます。



意欲向上のため、中には自分で色を選んでいる方も…。

用途のほか、手先の器用な方・器用でも細かい作業は合わない方・器用ではないが工夫次第で取り組める方…様々な利用者さんが作っているので、細かい目のタイフのものや、きつく編めるタイフのもの等、利用者の皆さんに合った編み機を使っています。



では、ここでこの編み機を使った製品たちをご紹介します！

### アクリルタワシ

アクリルタワシとは…アクリル100%の毛糸で編んだタワシです。弾力性・通気性・通水性に富み、ミクロレベルの細かい汚れをかき出して取り込む洗剤不要のタワシです。洗剤を使わないので、お肌にも優しく水を汚しません！

※ 食器洗い・お風呂洗い・窓やかかみ磨き・洗車・洗体…など用途はさまざま。ミトンタイプのものもありますので、用途に合わせてどうぞ。



色とりどりでキレイなアクリルタワシです。このほかにも色、柄、各種取り揃えています。

### スクリーンクリーナー

編み機が小さく編む段が少ないので、作業の見通しがつきやすい！

必ず1回の作業で完成させることができるので、短いスパンで取り組むことが合っている方が作っています。



これで汚れがちな携帯電話もびかびかです。

### ペットボトルカバー

アクリルタワシの倍の長さを編む必要があるのですが、1・2回の作業では完成しません。ある程度の長いスパンで取り組むことが出来る方(合っている方)が、作っています。

温かい飲み物の入ったペットボトルに最適です！



### 帽子

なんと！アクリルタワシの4~5倍ほどの大きさの編み機を使って、アクリルタワシの3倍ほどの長さを編んでいます。一つを編み終わるのに何日も掛かるので、長いスパンで取り組むことが出来る方(合っている方)に、ご本人の調子に合わせて取り組んでもらっています。 ※より暖かい帽子になる様、ウールの毛糸を使用しています。

手編みなのでポカポカです！



### ミサンガ

常時腕につけて、切れると願いがかなうとされているミサンガ。願いがかないますように…刺繍糸を使って心をこめて編んでいます。



より編みやすくなる様、職員お手製のミサンガ編み固定台を使って編んでいます。

今回紹介しました自主製作品のほか刺繍やビーズ製品の販売は、やまびこ工房で行ってありますが、これらの作品は11月27日(金)・28日(土)・29日(日)に行われます「自閉症児・者作品展」でご覧いただけます。

ご興味のある方は、ぜひ「おださがフラザ ラクアルオダサガ4階」までいらしてください！心よりお待ちしております。

(※詳しくは…<http://sagami-yamabiko.jp.org/> まで。)

## 自閉症について～嘔吐に対する取り組み～

今回は嘔吐について取り上げてみようと思います。やまびこ工房に通うある利用者は食事中、食後にかけて嘔吐を繰り返してしまいます。誤解しないで頂きたいのですが、自閉症者に嘔吐が多いわけではないのです。自閉症とはまったく別物かもしれませんが、嘔吐ということに取り組むときのアプローチの仕方は相手の気持ちになって考えるという点で自閉症者に対するものと同じです。つまり障害者支援の基本です。

まず相手の気持ちになる時に大事なのはまず自分がその状況に置かれた時を考えることです。私たちが「嘔吐」してしまう時はどんな時でしょう？風邪を引いて胃が食物を受付けなくなった時や泥酔して気持ち悪くなった時、車酔いした時やジェットコースターに乗った後などが考えられます。他にも嫌な臭いを嗅いだとき、さらに嘔吐までは行かないけど気持ち悪くなるときとして頭痛や強烈な不安があるときが考えられるかもしれません。

次にどうして吐いてしまうのかを考え、仮説を立てるのです。この方の場合、パン類は吐かない事が多いのです。家ではパンを主食にしています。やまびこ工房でもその原因を探るために、嫌いなものを吐いているのではないかと吐しゃ物を記録しました。確かに野菜類、特に青物は苦手なようですが、それだけではありません。御飯類が苦手なのでは？と現在は主食をうどんにしています。しかし嘔吐はあ

別の線を考えて見ます。内臓の調子が悪いのではないかと検査を受けてもらいました。しかし異常は見当たりません。ただ医師によると異常がないのと内臓の機能が正常かは別で、正常に働いているかは検査ではわからないそうです。そこで機能が正常に働いているかに着目してみました。食事の様子を見ていると咀嚼が出来ていません。殆ど嚙まずに飲み込んでいます。咀嚼は消化機能の入り口です。きっと胃に負担がいくはずですが、それが嘔吐に繋がっているのでは？との推測も成り立ちます。今までは、時に食事を摂らずに御わんをひっくり返してしまうときもあったため、食べやすいように刻んだものを食べてもらっていたのですが、嚙むことを大切にして欲しいと思い、刻まずに提供しています。食事支援をするときは急かさず、食べたい気持ちになるのを待ちながら、接しています。現状、嚙むのは2、3回程度ですが、今後もアイデアを出しながら取り組みたいと思っています。

やまびこ工房では以前のような大量の嘔吐は無くなったものの、少量ながら依然嘔吐は見られています。食後に意識的に反芻、吐き出しをしている様に思われる時が多いです。一方ご家庭では時々発作的に嘔吐してしまうので、嘔吐発作と呼ぶほどです。この時の本人の様子は自分の意思とは別に、吐きたくないのに吐いてしまい、お母様に救いを求める様な表情のときもあるそうです。嘔吐が本人にとってどういう意味があるのかということに行き着きます。嘔吐それ自体が苦痛なのか？あるいは嘔吐によって苦痛が和らぐのか？本人にとっての行為の意味を考えることも重要です。嘔吐しなければその方にとってもっと苦痛があるのかもしれないのですから。

食事や嘔吐にばかり捕われては事態が悪化する場合があります。そこで、日中活動の散歩を重要視して取り組んでいます。15分くらいの短い散歩から60分くらいの長い散歩を試しています。散歩が本人にあっていいのか、距離はどのくらいがいいのか。歩くルートによっても気分は変わってくるかもしれません。現在は長い距離を歩くと落ち着いて過ごせる傾向にあります。散歩中の本人の行為（道端の草をむしりとる、声出す、クルクル回る等）で本人のイライラ度や散歩後の嘔吐を推測できる様にもなりました。散歩後は簡単な作業もできる様になってきています。嘔吐が激しくなってから作業は中止していたのです。

散歩が直接的に「嘔吐」に働きかけたとは思いませんが、本人にとって何らかの良い刺激にはなっているようです。本人の気持ちになって考え、推測し、支援法を模索していく中で、時には直接的な支援よりも間接的な支援が必要になってくる場合もあるようです。このまま良い方向に向かってくれればと思いつつ日々支援を模索しています。 [上条 英夫]

## 研修報告

### 日本自閉症スペクトラム学会第8回研究大会 参加・発表報告

8月29日(土)・30日(日)に福井県立大学にて第8回研究大会が行われ、参加・発表をしました。研究者、支援者のみならずスペクトラム障害を抱えるご家族の方々が多く参加されて、熱心に見聞きされているのを見て、支援者としては襟を正す思いでした。研究大会とはどのようなものか簡単に説明しますと、形式は3つに分かれます。①シンポジウム ②ポスター発表 ③口頭発表 です。同一の時間内に平行してシンポジウム、発表があるので、すべてを見ることは不可能なのですが、今回の大会のテーマは“現場での支援に役立つ 発達の見点に立った診断と評価”とあり、確かに実践報告・研究のほか、評価方法に関する発表が多かった気がします。

自分が聞いたシンポジウムの一つに「役立つ発達検査の開発3」というのがあり、3つの視点からの検査方法についての発表・意見交換がありました。

1. 運動や技術面を主とする検査方法 例：ボールを蹴る はさみを使って紙を切れる パソコンでは間違えずに入力・確認をし、校正する力を持ち合わせている
2. 社会的に求められることを主眼とした検査方法 例：魚の小骨などがあっても、口に入れたものをすべて吐き出すことなく、小骨のみを取り出すことが出来る 立ち作業を続けられる
3. コミュニケーションや余暇を楽しむ能力を主とする検査方法 例：表情の変化が乏しい 特定の相手に、同じ答えを期待して、常に同じ質問・語りかけをする

上記の1、2、がスキルの面での検査方法で何々が出来るかを問うのに対して3、は出来ない点や特異な点が出てきます。1、2、は発達障害が軽度であれば、高得点になりそうですが、3、は自閉症であれば高得点になりそうです。自閉症の特徴はコミュニケーションや余暇の面で出やすいのかもしれませんが。一方、1、2、の検査方法を自閉症者に適応した場合、正確な検査ができるのかどうか疑問です。自閉症の方は出来るのに必要性を感じ取れなければ行わない(出来ない)傾向にあるからです。

ポスター発表では発達段階に応じた支援の重要性をテーマにした発表や構造化やソーシャルストーリーズを用いた支援成果に関する発表があり、熱心に見て質問をされている方々と懇切に説明をする発表者がいて、そこから醸し出される雰囲気は心地よいものです。一度に多くの発表を見聞きできるのはポスター発表の良い点です。本人にわかりやすく提示すること、整理してあげること、その次を見据えて今の本人状態にあった支援をしてゆくこと、このような点の重要性を改めて感じました。

私は口頭発表をさせて頂きました。家庭における他害行動が増え、対処方法について家族と話し合いながら、支援した経過・結果・考察をまとめたものを発表しました。横浜国立大学 渡部匡隆先生の指導を受けながら、準備にあたりました。発表の内容も先生と決めたのですが、何が悪かったのか、良かったのかも自分には分からないし、特に技術的なことは何もしていないことを先生に伝え、発表は出来ないことを暗にほのめかすと「じゃあ、それで発表しよう」と言われ、行った支援について振り返ることになりました。自分の視点は他害といういわゆる問題行動にあったのですが、先生の着目点はそこにではなく、自閉症者本人とご家族の生活の充実にあったのです。日々の家庭における課題・問題に対し、真摯に取り組み、相談したり、安堵したり、悩んだりして深い営みのある家庭、好き好んでそのようになったのではないけれども、でも決してそれは悪いものではなくて、きっと充実感もあるはずであることを先生は気づかせてくれました。実際の発表では思うようには伝えられなかったのですが、聞いてくださった方々より、今後、自立に向けてグループホームの利用はどうか、兄弟は大丈夫なのか、他害以外の不満の表現方法は検討しているのかと的確な質問を頂きました。今後の課題と受け止め、日々の支援につなげたいと思います。(薬師丸和浩)



## 後援会のページ

### 「やまびこ工房増築工事」地鎮祭に参加して

去る10月10日に「やまびこ工房増築工事」の地鎮祭（起工式）が、やまびこ工房裏側の工事予定地にて執り行われました。発注者側からは、政野理事長、中島施設長をはじめ風の谷の理事、評議員そして当日ブルーベリージャム作りに参加していた家族会の母親とその子ども達も参加しました。また、受注者側からは、設計会社、施工会社の代表が出席し、式はしめやかに進められました。当初、約1時間の式の間おとなしくしていただけるか心配していた子ども達も、厳かな神事が珍しいのか興味深そうに静かに、混乱もなく過ごせました。母親たちもほっとしていたことと思います。

今回の増築工事では、作業室、相談室、短期入所用の居室が設置されます。これに伴いやまびこ工房として、作業スペースの増加のみならず短期入所設備も持つことになり、新たな事業展開が可能となります。また、利用者にとっても緊急時等の短期入所が可能となり、より利用しやすい施設となることが期待されます。後援会としても、従来以上にやまびこ工房が利用範囲の広い、使い易い施設として、利用者家族の方々に有効に利用され、より豊かな地域生活を実現する施設として発展するよう希望しています。

風の谷後援会会長 鈴木秀美

#### 【更新・個人】平成21年7月1日～平成21年9月30日（敬称略）

（相模原市内）

松原麻子、鹿野徹子、高橋ツギ、原徹、荻原常寿、小松真弓、内田まゆみ、山口彰一、百田紀久男、古橋銀之助、柏木忠雄

（その他の地域）

江崎康子（藤沢市）、藤野孝夫、新井靖数（厚木市）、源新和子、宮手敏夫（盛岡市）、守屋恵美子（堺市）、上城和子（北九州市）、清水洋子（横浜市）合津紀子（上田市）、奥平瑞恵（伊勢原）、村岡嘉紀（大和市）、塚本寿子（遠敷郡）、下田武（藤枝市）

#### 【ご寄付・ご協力】

新宿自治会、新宿小学校、（有）伸和トラスト、三菱重工労組、キャタピラー東日本株式会社、朝日建設株式会社、ワーカーズコープ・キュービック、依知の会、コープ田名店

他大勢のみなさま

ありがとうございました。

### 風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

**一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円**

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

#### お問い合わせ先

〒229-1124 『風の谷後援会』事務局

相模原市田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内 TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345